

何んな印刷でも

御好みに應じます

大阪市東區博勞町一丁目

芳文館製版印刷所



山 村 清 吉 君

氏は池田町に生る。曩に理髮業を營み、家號を「床清」と謂へば當地斯業者間に重きを爲せる老舗なりき。天資豪腹にして快活、仁俠の氣に富み常に惻隱の情を垂れて憐憫の人を扶助したる事故擧に違あらず、故に仁人俠士として郷黨の信望敦く世人の畏敬を博す。日露戦争の大勝に際し武勳高き名譽の凱旋將士を迎え酒樽を送りて盛大なる歡燕を張りし事は今尙ほ當地方一の話柄として語り傳ふる處なり。十年前理髮業を廢し大阪に移住して實業界に身を投じ建築材料たるセメントの原産地を發見し之れが採掘に着手して收益あり、現在大阪に本店を置き出張所を臺灣に設けて手擴く業務を擴張し家運日に榮えて今日に及ぶ。自宅は大阪市東區上本町五丁目にあり、業務一切を主任に委託し自らは公私の事業に盡瘁して寧日なし。今本誌の編纂に當り氏また大に賛同して鞭撻督勵し經濟的援助を爲して本誌の上梓に與へられた力頗る大なり、故に一箋を割き氏の功績を叙べて茲に深甚なる敬意を表する以所なり。

編纂を終えて

編者識



野矢者雄君



伊田之助君

凡そ事の大小難易に論なく一計一業を完成し待るは、世の同情と衆の援助に因るものたること敢て嗷々の要はありませんが、茲に本書稿成り刊を終えたるの一事は不肖私等をして名譽ある郷土誌を發行するの光榮を擔はしめました。これ一に江湖諸賢の賜たることは言ふ迄もありません。

元來本事業は本年の春報紙事業に異常なる興味と手腕を有する青柳隈太郎君の發起に成つたものであります。君は常に曰く「郷里九州の地より上阪し當地に御厄介となつて居る以上は何がな世人の爲めに盡す處がありたい」と、偶々當地の文化的事業方面を見るに頗る寂寥にして萎微不振たるの觀を免れず北攝の一都邑池田の地を一目瞭然の下に知らんとする何ものも無き事は當地の人は素より他郷より來池する者の常に不便と不満足を感ずる處でありました。青柳君即ち茲に着し眼本誌發行の計を樹つると共に本誌編纂の大任を淺學茹

才弱冠にして何等爲す事もなき私に托されたのであります。

爾來青柳君は中途にして本事業を扶けたる紺田伊之助君と協力し殆ど半歳の間を本事業の爲めに没頭したのであります。其の間巷門を敲き閭扉を訪ふこと實に數百戸、寒威身を斫るの時も炎灼骨を鏝す日も星を仰いで出で月を戴いて戻り精勵一方ならず、時に或ひは各家の門を訪るや徒食の輩を以て遇せられ其苦心の慘憺實に筆紙に盡し難いものがありました。而も比較的上流智識階級者よりも中流階級の人達が深甚なる同情と理解を寄せられた事は私等に貴重なる或る經驗を與へて深き感銘なきを得ないものがあつたのであります。

御覽の通り本誌は決して完全なるものとは云へません。

讀者諸君は宜しく他日の補正を期して粗笨に成れる今日の本誌を捨て給はざらん事を希望致しますが、兎にも角にも本誌が當地郷土誌中の先驅として多少なりとも世人に裨益を齎す事のあるべきは些か自負しても宜からうかと思ひます。尙ほ本誌編纂に方り各方面より寄せられたる指教援助を茲に深く感謝する次第であります。就中「池田酒造史」の發行者北村儀三郎氏並に池田史談會荒木藤一郎氏の直接或は間接の教示を特記して厚く敬意を表して置きます。



青柳隈太郎君

大正十年十二月十七日印刷
 大正十年十二月廿二日發行

著者權所有

編輯發行人

大阪府下池田町字荒木町三〇九九
 青柳 限太郎

印刷所

大阪市東區博勞町一丁目
 芳文館印刷所

發行所

池田便覽社

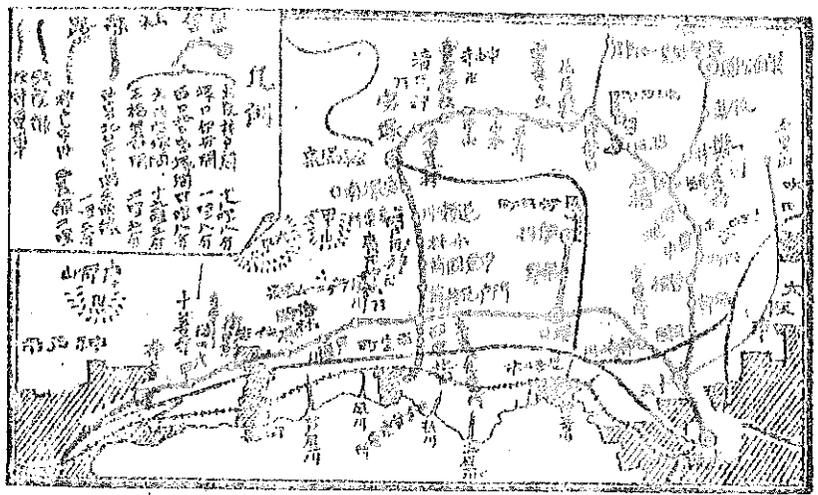
大阪府豊能郡池田荒木町三〇九九番地
 電話二四九番
 振替大阪五八六八番

サシマシ酒

口當りきま
 酔心地よし

達用御省内宮
 株式會社酒造山

大阪梅田 阪神急行電鐵株式會社



阪神急行線

大阪神戶間十八哩六十九鎮の急行線を中間停留場八ヶ所にて僅か四十五分で走つて居りますが將來は三十分で運轉するのが理想であります而して客車は最新式の綺麗なものを車で沿線の松林又は高臺を走るときは茶海の展望實に壯快であります沿線の重なる名所舊蹟は左の通りであります

阪神急行線 沿線名所舊蹟
 大阪 中之島 大正堂 伊丹町 伊丹支線
 西宮 西宮北口 西宮南口 西宮東口 西宮西口 西宮南口 西宮東口 西宮西口 西宮南口 西宮東口 西宮西口

寶塚線

本線は到る處探勝の地ありて四季の風光變化に富むを以て郊外に一家清遊の人々四六時中絶え間なし、沿線の名所舊蹟は左の通りであります

寶塚線 沿線名所舊蹟
 寶塚 寶塚南口 寶塚北口 寶塚東口 寶塚西口 寶塚南口 寶塚北口 寶塚東口 寶塚西口 寶塚南口 寶塚北口 寶塚東口 寶塚西口

西宮寶塚線

西宮北口より寶塚に至る線で有名なる門戸厄神は本線「門戸厄神前」で下車が最も近道であります、神戸方面より寶塚に遊ばれる方は西宮北口で本線にお乗替にければ僅か三十五分で行く事が出来ます

寶塚少女歌劇

正月公演 自一月廿二日 月組出演 二月公演 自二月廿二日 花組出演
 春期公演 自三月十五日 月組出演 自五月十五日 花組出演
 夏期公演 自七月十五日 月組出演 自九月十五日 花組出演
 秋期公演 自十一月十五日 月組出演 自十二月十五日 花組出演

各劇場外は別冊、探見、一月、十五日刊行